

産衛だより

平成 23 年度事業報告

1. 総会を平成 23 年 5 月 18 日に東京都において開催した。
2. 理事会を 4 回 (4 月 2 日, 7 月 9 日, 10 月 1 日, 12 月 23 日), 臨時理事会 (メール審議) を 3 回開催した。
3. 機関誌「産業衛生学雑誌」及び「Journal of Occupational Health」(第 53 巻: 和文 6 冊, 英文 6 冊, 学会号 1 冊) を発行した。
4. 第 84 回日本産業衛生学会を, 平成 23 年 5 月 18 日～21 日に東京都で開催した。(関東地方会担当, 角田 透企画運営委員長)
5. 第 21 回産業医・産業看護全国協議会を, 平成 23 年 11 月 23～26 日に福岡市で開催した。(九州地方会・産業医部会・産業看護部会・産業歯科保健部会担当, 織田 進企画運営委員長)
6. 第 20 回産業衛生技術部会大会を, 平成 23 年 12 月 10 日に開催した。
7. 9 地方会活動 (北海道, 東北, 関東, 北陸甲信越, 東海, 近畿, 中国, 四国, 九州) を行った。
8. 4 部会活動 (産業医部会, 産業看護部会, 産業衛生技術部会, 産業歯科保健部会) を行った。
9. 7 常設委員会活動を行った。1 非常設委員会及び 2 ワーキンググループを設置した。
 - (1) 編集委員会 (2) 許容濃度等に関する委員会 (3) 生涯教育委員会 (4) 労働衛生関連法制度検討委員会 (5) 専門医制度委員会 (6) 表彰制度に基づく選考委員会 (7) 倫理審査委員会 (8) 震災関連石綿・粉じん等対策委員会 (非常設) (9) COI に関するワーキンググループ (10) 職場のメンタルヘルス対策に関連した法律改正への要望作成ワーキンググループ
10. 31 研究会活動を行った。
 - (1) 産業疲労研究会 (2) 振動障害研究会 (3) 職業性呼吸器疾患研究会 (4) 中小企業安全衛生研究会 (5) 産業中毒・生物学的モニタリング研究会 (6) 産業精神衛生研究会 (7) 放射線原子力保健研究会 (8) 作業関連性運動器障害研究会 (9) アレルギー・免疫毒性研究会 (10) 労働衛生史研究会 (11) VDT 作業研究会 (12) 健康教育・ヘルスプロモーション研究会 (13) アルコール問題研究会 (14) 職域身体活動研究会 (15) 産業神経・行動研究会 (16) 温熱環境研究会 (17) 労働衛生国際協力研究会 (18) 就労女性健康研究会 (19) 産業疫学研究会 (20) 産業保健情報・政策研究会 (21) 産業保健マーケティング研究会 (22) 職域における睡眠呼吸障害研究会 (23) 職域における喫煙対策研究会 (24) 医療従事者のための産業保健研究会 (25) 産業栄養研究会 (26) エイジマネジメント研究会 (27) 産業心理技術研究会 (28) 非正規雇用研究会 (29) 騒音障害防止研究会 (30) 交通における安全と産業衛生の研究会 (31) 大学・研究機関に

おける安全衛生管理研究会

11. 名誉会員推薦は 2 名, 奨励賞 2 名, 功労賞 2 名に授与した。
12. 専門医制度について, 指導医及び専門医の更新手続きと専門医資格認定試験を行った。専門医制度の改正を行い, 専攻医制度を整備し, 研修施設認定を行った。平成 24 年 1 月現在, 指導医 295 名, 専門医 163 名が登録された。研修登録医は 328 名である。
13. 産業看護師は, 平成 24 年 1 月現在 1,614 名が登録された。
14. アジア産業保健学会 (ACOH) 2014 年大会の開催に向けての準備を行った。また, 国際協力の一環として, 国際学会開催の援助およびアジアを中心とした学会誌の無償配布を行った。
15. 14 の学協会の開催について, 協賛・後援した。
16. 新公益法人移行の準備を行った。

第 84 回日本産業衛生学会の開催について

(企画運営委員長: 角田 透)

第 84 回日本産業衛生学会ならびに特別研修会は関東地方会が担当し, 2011 年 5 月 18 日から 20 日 (特別研修会: 21 日) にかけて, 東京都港区のニューピアホール, ホテルアジュール竹芝, シーサイドホテル芝弥生, 東京都立産業貿易センター浜松町館の 4 会場で開催された。

働くということを見つめ直した上で, 産業保健に携わる我々はどのように対処するのが望ましいのか, 働くということに対して産業保健はどのような役割を持つのか, を考えたいと願って, メインテーマを「働くということと産業保健 —その原点に還って—」とし, 特別講演と招待講演, 教育講演 4 題, シンポジウム 14 題などからなるプログラムを企画した。

一般演題については, 本学会としては初の試みであったが事前の査読を行った。武林 亨プログラム委員長を中心とする委員の先生方の強力なご支援があって初めて出来たことであり, 感謝を申し上げるとともに, このことに関して多くの方々のご理解を得られ, 学会運営にひとつの方向性が示されたものとして大変喜ばしいことと考える。口演のうち 20 題は優秀演題賞として企画運営委員長名での表彰を行った。口演もポスター発表もできるだけ多くの聴衆が集まるよう, シンポジウムなどと重ならないような運営を心がけた。

企画の概要を以下に示す。

特別講演: 「Health, Work and Wellbeing —

Are We Making Progress?»

招待講演: 「Building and Sustaining A Healthy, Resilient, and Good Life: Lessons from Positive Psychology」

緊急企画: 「災害時の産業保健」

教育講演:

「職域におけるアルコール関連問題—最近の知見から—」

「暑熱ストレスの健康影響とその予防」

「産業保健従事者のための結核管理—State of the Art—」

「健康会計の意義と活用」

シンポジウム：

「これからの産業保健は労務管理とどうかかわっていくのか」

「運輸業務従事者の労働衛生管理

—健康管理, 労務管理を踏まえて—

「産業保健職とマネジメントスキル

—習得のための教育技法を巡って—

「受動喫煙防止対策の義務化の影響について」

「ディベート：うつ状態の労働者の休業を巡って

～勤務させるべきか, 休ませるべきか」

「医療従事者の健康的な働き方を目指して

～看護師の過重労働・シフトワーク対策を中心に～

「職場における化学物質管理のあり方をめぐって

—新しい視点に立った化学物質管理のフレームワーク—

「健康診断に関するエビデンスと健康診断の今後」

イブニングシンポジウム：

「職場における栄養改善から取り組む生活習慣病対策

～従業員食堂を積極的に活用して取り組む」

「加齢とワークアビリティ～産業医としての関わり」

「産業化学物質におけるばく露, 生物学的モニタリング,

毒性評価における新たな取り組みと今後のリスク

マネジメント」

「メンタルヘルスと健康診断」

「世界に広がる参加型産業安全保健ネットワークの国際潮流」

「関東地方の労働衛生史」

他にも, 日本学術会議共催の市民公開講座, 地域交流集会, また, 総会, 各種の部会・委員会, 学会賞・奨励賞受賞講演, 研究会, フォーラム, ランチョンセミナー, イブニングセミナー, 企業展示, 書籍展示などが行われた。

東日本大震災というかつて経験したことのない大災害の中での開催となり, プログラムの一部については変更せざるを得なかった部分もあった。会場の規模や動線確保上の問題から, ご不便もおかけしたと思われるが, ご参加いただいた約 3,000 名の方々, 演者・シンポジスト・座長の先生方, 関係諸機関の皆様, 経済的なご支援をいただいた企業・団体・個人の皆様に感謝申し上げます。この学会は, 企画・運営に尽力していただいた役員・各委員会委員をはじめとする関東地方会ご所属の先生方の全面的なご協力を得て開催することが出来た。心より御礼申し上げます。

第 21 回日本産業衛生学会産業医・ 産業看護全国協議会

(企画運営委員長：織田 進)

日本産業衛生学会九州地方会, 日本産業衛生学会産業医部会, 日本産業衛生学会産業看護部会, 日本産業衛生学会産業歯科保健部会が主催し, 福岡県医師会の共催, 福岡市医師会・福岡労働局・福岡県労働基準協会連合会・日本産業衛生学会産業衛生技術部会・福岡産業保健推進センターの後援のもとに, 平成 23 年 11 月 23 日 (水)～26 日 (土), アクロス福岡および西鉄イン福岡を会場にして, 「社会基盤としての産業保健活動」

をメインテーマとして開催され, 585 名 (学会員 453 名, 非学会員 132 名) 566 名が参加し, 下記のプログラムを無事に終えることができました。

1. メインシンポジウム：「社会基盤としての産業保健活動」
2. シンポジウム：「人と人とのつながり (ソーシャルキャピタル) を考える」
3. 実地研修：5 事業場で実施し, 138 名が参加した。
4. 4 部会合同セミナー：福岡徳洲会病院に 39 名参加した。
5. リレーワークショップ：産業保健における連携として 2 回目であり, 今回は「地域の公的関係機関との連携」を議論しました。
6. ポスターセッション：演題数 45 題 (医師 32, 産業看護職 13) の中から, 優秀賞として産業医部会および産業看護部会から 2 名ずつ選出された。
7. 産業医部会企画：ソーシャルキャピタルとしての産業医活動
8. 産業看護部会企画：社会基盤としての産業看護職—ジェネラリストたちの実践活動を通じて—
9. 産業歯科保健部会企画：産業歯科保健フォーラム—企業を元気にする産業歯科保健—
10. 研究会等として,
 - (1) 職業性呼吸器疾患研究会
 - (2) 産業保健情報・政策研究会
 - (3) 大学・研究機関における安全衛生管理研究会
 - (4) 第 6 回交通における安全と産業衛生の研究会
 - (5) 代替医療と産業保健
 - (6) 編集委員長と話そう：藤野善久氏 (産業衛生学雑誌副委員長)
 - (7) 自由集会
11. ランチョンセミナー (3 題実施)
12. 懇親会：アサヒビール園での懇親会も 152 名の出席。
13. 同時開催研修会等として,
 - (1) 日本医師会認定産業医研修会
 - (2) 呼吸用保護具研修会